

BCL大好きマガジン

BCL は
趣味の
王様



NDXC 40 周年おめでとう号

2016 春

ごあいさつ

みなさん、こんにちは。この雑誌はBCLが大好きな仲間が集まり、もっともっとBCLの楽しさを多くの人達に伝えたいという思いで生まれました。今号は特別版「NDXC 40周年おめでとう号」です。1976年春にNDXC・名古屋DXersサークルは誕生しました。それから40年、あまたの伝説と功績を残し、そして今もなお日本のBCLのトップランナーとして活動を続けられています。ぼくらの永遠のあこがれでありますNDXCのスーパーDXerと神様のようなOMのみなさまに敬意を表してお祝いのことばを贈りたいと思います。

(編集人)

この熱い想いをすべてのラジオ好きに捧げます。



NDXC関係者ご一同様。40周年、おめでとうございます。
ラジオ受信というスタイルこだわって40周年、クラブ運営継続されましたことに改めてお祝い申し上げます。ソフトからハードまで、受信機からアンテナまで、そして人間教育に至るまで、いつも参考にさせて頂いておりました。憧れのクラブでした。いま、この日を迎えられましたことを自分の事のように喜んでおります。これまで以上のご活躍を50年、60年と継続されますことを心よりお祈りいたします。

TDXC 顧問 竹野伸郎さん

40周年本当におめでとうございます。
40周年という歴史あるクラブの記念行事に参加させて頂くことができ、大変光栄です。BCLを始めて数年の未熟者(私)をあたたかく迎えて下さり、本当にありがとうございます。様々な分野に精通したOMが数多くいらっしゃる貴クラブは私の憧れでもあります。今後もBCL界をリードして下さいますようお願いいたします。また、今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

山之内悠樹さん

NDXC40周年、誠におめでとうございます。

自分の好みは LW・MW を中心だったこともあり、ソフト、ハードとも先端的な NDXC は憧れのサークルでした。何名かのメンバーの方々とは 1990 年代後半に千葉県外房の蓮沼や、伊良湖でのペディ、またハムフェアなどでご一緒できたのは、良い思い出です。これからも 50 周年に向けて、益々、エネルギーギッシュなクラブとして DX 界へ新鮮な刺激を与え続けて行かれることを祈念致します。

夏姫号さん

NDXC 様 40 周年、おめでとうございます！

貴クラブの活動は私の憧れです。私が中高生のときはアカデミックなクラブとして。そしてメーカーに就職してからは素晴らしいエンジニアリング活動をなさっているクラブとして。例えば、ハード面の豊富な知識、そして仮説を立て検証する姿勢。ソフト面では定点観測（=いつもモニタリングする）等を通じての受信テクニックおよび豊富な情報の入手テクニック、そして言語知識 etc. 自分にとっていつまでも遥か彼方の憧れでいて戴きたく、益々のご発展を祈念致します。

旧 B 連新潟ミーティング所属 田澤 弘さん

NDXC 40周年おめでとうございます。

10代の頃から憧れのサークルでした。特に、私がアクティブだったソ連崩壊以降の10年ほどの間には、伊良湖岬や岐阜・美並村でのペディに参加したり、一部のOMさんとディープに情報交換させてもらったりと、忘れられない思い出がいくつもあります。放送受信をめぐるソフト、ハード、情報発信など様々な分野で最先端を走ってきた貴サークルのますますの発展を祈念申し上げます。

Mr. Hiro Oguma

NDXC 40周年おめでとうございます。

これからもご活躍期待しております。

JH1EAF 局

NDXC40周年おめでとうございます。

当時大学生だった私も新幹線に乗って何度かお邪魔したことを思い出します。勤勉なDXerばかりでいつも大変触発させられました。私にとってあまり馴染みのない名古屋の地を強く印象付けたサークルです。これからも益々のご発展を祈っております。

田辺保晴さん

KDXC命名秘話「DXへのあこがれ」

1980年春。18歳の私は、大学入学と同時に上京。3つの金沢ではできなかったことをやろうと決めていました。一つはBCLミーティングに出ること。二つ目は雑誌「短波」の発行元、BCL連盟でバイトをすること。三つ目は、国際電話のオペレーターのバイトをすることでした。

二つ目は、連盟からの手紙で、丁寧に断られました。当時すでに、連盟の財政は火の車で、バイトを雇う余裕はない、とのことでした。一つ目のBCLミーティングは、当時杉並区に住んでいましたので、まず西東京ミーティングに出てみました。中南米DXerが中心でしたので、私の指向とは違うため続かず、夏に目黒でやっていた城南ミーティングに出てみました。西東京と違い、出席者の指向性はバラバラで、こちらの方が向いているかな、と思っていたら、喫茶店での二次会で城南ミーティングメンバー主体でBCLクラブをつくろうという話が盛り上がり、じゃあ、名前を決めよう、ということになりました。

当時、BCL連盟傘下の全国のミーティングで、DXC (DXers Circle) という名称を使っていたのは、名古屋のNDXCと西東京のNTDXCだけでした。当時のミーティングチーフに、DXCと

名乗るには条件があるのか、と聞いてみても、特に条件はなさそうで、じゃあ、TDXC(東京)だと、NTDXCの亜流みたいだから、関東にしてKDXCにしよう、というぐらいのノリで名称を決めました。

それから、NDXCを初めとする先輩サークルに追いつくことを目指してやってきました。しかし、KDXCは残念ながら活動休止したのに、今でもNDXCは活動を続けていることに驚き、先輩方に敬意を表します。特にネット上での情報発信に力を入れるなど、続けているだけでなく、新しい情報発信手段を取り入れているのは、素晴らしいと思います。ミーティングに実際に参加したことは、数回しかないと思うけれど、暖かく迎えてくれた記憶があります。

NDXC 40周年おめでとうございます。

これからも日本のDX界をリードしてください。

ちなみに、私が東京に来たらやりたかったことは三つ目も実現しており、大学1年の夏から2年の3月までKDDでバイトを続けました。やりたいことやりすぎで、大学出るのに5年かかりましたが…

元KDXC代表 山田靖次さん

NDXCの皆様、40周年おめでとうございます。

自分がBCLを始めた30年前、短波誌やHz誌ではすでに、アクティブに活動をされてるのを目にしておりまして、自分とは次元が違うところにいらっしゃる方々が活動をされてるという印象がありました。時は流れて、BCLを取り巻く状況は激変しておりますが、それでもなおかつ継続的に活動をされているのは、本当に素晴らしい事であると思っています。クラブを運営していくに当たっては、これからも様々な困難に直面するかとは思いますが、今後も末永く活動されるようお祈りしております。

河村弘典さん

NDXC40周年おめでとうございます。

私が本格的にBCLをしはじめたのが90年代。関東DXersサークルのミーティングに参加していた私がNDXCと関わったのは、ミーティングで回覧されるNDXC Newsletterを読むくらいしかありませんでした。そのNewsletterは紙媒体にも関わらず、ライブ感たっぷりの情報が毎号掲載されていたのは今でも覚えています。またKDXCのミーティングに参加されていたNDXCメンバーの方々には、かなりお世話になりました。そんな人情に厚いNDXC

メンバーがいたからこそ、40年もの長い歴史を築き上げられたと思います。日本のBCL界を引っ張ってきた重鎮サークルとして、今後のさらなる発展に期待をしています。40周年、本当におめでとうございました。

千葉県 伊藤 晃さん

NDXC 40周年おめでとうございます。

貴クラブが発信される受信情報や技術記事は大変参考にさせていただいています。これからも日本のBCL界を一層リードしていってくださるよう切にお願いいたします。会員の皆様のさらなる御活躍と御健勝をお祈りいたします。

出がらし紋次郎さん

※お祝いメッセージの到着順に掲載しました。(編集人)

BCL 川柳

ID は 必ず取ろう きみとぼく

このたびはNDXC40周年まことにおめでとうございます。

10年前、NDXC30周年記念ミーティングでメンバーの皆様とお会いした時の興奮を、今でも覚えています。当時私はBCLの世界に戻って3年の新参加者でしたが、名古屋の皆様は前夜祭から暖かく迎え入れてくださいました。会場には、中学生の頃短波誌でお名前を拝見していたベテランDXerが大勢集まっており、一緒の空間に居られる喜びでつい飲み過ぎてしまい、翌日のミーティングは一日中ひどい二日酔いでした。

「サークル」でBCL活動を楽しむことへの憧れから、近年地元横浜市戸塚区でTDXC (Totsuka DXer's Circle) を設立しました。思っていた通りサークル活動はとても楽しく、現在会誌も4号めを編集中です。

海外短波・中波放送局の減少や都市ノイズの増加、BCLの高齢化など、私たちを取り巻く世界は厳しさを増していますが、サークルを通じた力強い繋がり合いがあれば、どんな状況でも楽しみ抜けると最近確信しました。それを実践し続けているNDXCに、あらためて敬意を表したいと思います。

NDXCの末長い活躍を願っております。

長谷川真也さん



BCL 川柳

ペディションで 絶対張るぞ ビバレージ

編集後記。

このたび、このような形でお祝い号を発行することができたのも、多くの仲間たちの協力があったからにはほかなりません。急な話でもうしわけなかったのですが、昔のBCLサークルの仲間、ネットで知り合えた新しい友人、オフ会で出会った先輩などに呼びかけたところ、こころよくご賛同いただきました。みなさん、ありがとう。感謝します。

あらためまして設立40周年、おめでとうございます。

ぼくの記憶に印象深く残っているのは「花の高3トリオ」の存在です。ぼくよりいくつか年上の先輩方です。なにかの記事でこんなエピソードを読みました。イベントを前に何人かのOMさん達が打ち合わせをしていた喫茶店の前を高3トリオが通りかかりました。彼らに気が付いたOMさんの一人が声をかけますが3人は知らん顔で通り過ぎて行くのです。ちょっと待てよとOMさん、あわててお店を飛び出し、

OMさん「おーい、耳がないのか!？」

高3トリオ「コーヒー代、損した…」

OMさん「ぎゃふん」

このやり取りを読んだぼくは、神様のようなOMさんと気楽に冗談をいい合える間柄にある高3トリオのお兄さん達をうらやましく思いました。

(編集人)

BCL 大好きマガジン「BCL は趣味の王様」

NDXC 40周年おめでとう号 (2016 春)

発行日： 2016年2月14日

編集人： せきやま☆あすか

発行所： BCLの王子さま社

連絡先： E-mail: bcl_prince2014@yahoo.co.jp

Web: http://blogs.yahoo.co.jp/bcl_prince

© BCLの王子さま社 2016 (無料配布)